

F I N L A N D J Ä R V E N P Ä Ä

第26回 ヨーロッパ キリスト者の集い 証と感想



蘇るフィンランドでの感動

今年もキリスト者の集いに参加出来た事を心より感謝致します。フィンランドの実行委員の皆様には、大変なご苦勞があったと思いますが、その1つ1つのご奉仕に主が恵みと祝福を与えて報いて下さったと信じています。

集いでは、毎朝早くから顔を合わせるスモールグループのメンバーと、昔からの友達のように語り合い、沢山の恵みを分かち合う事が出来ました。盛永先生を通していただいたメッセージの中に、マリアとマルタのお話が出て来ましたが、私はいつまで経ってもマルタのように、周りの事ばかりに気が取られ、一番大切なイエス様に目を向けられない自分であることを改めて思い知らされました。また曹先生のお話の中で、宣教のために中国語を

習い始めていると証がありました。私も外国に住む者として、より一層外国語の学習に力を入れていかなければと思わされた瞬間でした。

また前回はそうでしたが、今回も集いから帰宅すると、娘がCSで覚えてきた賛美歌を家で歌ってくれるので、いつでもフィンランドでの感動が蘇ってきます。そして幼子の素直な信仰を見せてもらい、感謝しています。

沢山のご奉仕やお働きに携わって下さった皆様、特に実行委員の方々、大変お世話になり、本当に有難うございました。また来年の集いを心から楽しみにし、主に期待しております。



ヘス明美
スイス日本語福音キリスト教会

収穫は多いが、働き手が少ない

今回のヨーロッパキリスト者の集いのユニークな点は、み言葉を聴くプログラムだけでなく、グループに分かれて町に出て行って実際に伝道や奉仕をしてみる、というプログラムが組まれていた点であったと思う。『アウトリーチ』という横文字で呼ばれているものは、要するに、あの、昔からなされていた路傍伝道ではないか、ちょっと古いなあ、伝道効果はあるのかなあ、などと、やる前は思ったが、実際にやってみると結構新鮮であった。



私が入った『讚美グループ』は、3曲の讚美歌やゴスペルソングを練習し、アウトリーチの当日は、ヘルシンキのとある教会の前の路上で歌った。立ち止まり、聴いてくれる人、写真を撮る人などがあり、歌い終わると拍手があがった。また、歌っている間に、『アートグループ』や『手工芸グループ』が前もって製作したビーズアクセサリーや、筆で書いた『愛』などの文字入りのうちわを路上で配った。

喜んで受け取る人がとても多く、瞬く間に無くなった。路傍伝道はもう古いとか、伝道効果は薄い、という固定観念は私の頭の中からすっ飛ばした。工夫次第で、それほどお金もかからず、「教会ここにあり」とのこを町の人々に知らせることが出来、これは自分達の教会でも使える伝道方法だと思った。通行人の中には、私達が教会の人間であると判ると、話がしたくてしょうがないという感じでいつまでも話しかけてくる人もあった。人と話をすることに飢えている人、心の渇きを覚えている人、そして教会に何かを求めている人が、巷には少なくないのだということを感じさせられた。「収穫は多いが、働き手が少ない」（マタイ9章37節）とのみ言葉を思い出した。

林原泰樹

ケルン・ボン日本語キリスト教会

日本から参加して

フィンランドの集いでは日本からの参加にも関わらずSGの方々や先生方にいろいろの励ましや、メッセージを頂き感謝です。



今年の修養会がいつもと少し違うSGを中心にした進行で、少し戸惑われた方も居られたと聞きましたが、私にとっては、海外で生活をされている方々の生の生活、信仰のお話が聞け（ワーシップでの出来事など）、恵まれた毎日でした。ドイツチームを中心にした賛美も良く、先生方のメッセージも良く判りました。白夜賛美集会での子供達や、青年会の賛美も力が与えられました。二人または三人が私の名によって集まる所には、私もその中にいるのであるの御言葉どおり主の御名を賛美します。ハレルヤ！

多田員幸

OVMC津田キリスト教会

主の御名を賛美いたします。

今回、欧州のキリスト者の集いは初めての参加でした。OVMCフィンランドの母体となるOVMC津田に所属する者として、日本の香川県からヨーロッパの祝福のために働くために、主によって導かれました。私たち家族は、CSを支えることを使命として奉仕し、たくさんの祝福を与えられました。それは、CSに仕えた青年の方々がどんどんイエス様によって「愛」のある弟子と変えられたことです。自ら、子どもたちと関わり、さらにはいつの間にかスモールグループを作って分かち合いをし、祈り合う姿を見て、主の素晴らしい御業を見させて頂きました。そのことで、子どもたちも奉仕者に従って主に向かって礼拝する姿がどんどん変えられました。

CSの賛美コンサートがまさしく証しですね。また、我が娘（小3）もCSでの礼拝及び賛美コンサート建て上げに参加し、神様を求める魂が強められました。消極的なところがある娘がリズムに体の動きを合わせて大きく心を開いて賛美する姿を見て主に感謝。

今回のキリスト者の集いがあらゆるところで神様が働き、神の家族の一致が成されたことを実感する素晴らしい体験をしました。

今後もヨーロッパのクリスチャンの魂が燃えることを祈り続けております。

OVMC津田： 増田泰己・加代子・気代



賛美と霊にあふれた集会でした。

スモールグループも心開いて祈ることができました。お働き下さった方々のご労苦に心より感謝いたします。若い方が、よい力をだして下さいました。すべてのこと主に感謝します。

下山田誠子
伊那集会



主よ、あなたが働いてくださる時

修養会の三日目、ヤンベンパーの街で伝導することになっていました。前日、グループで焼いたみことばの入ったクッキー袋とみことばの書かれたうちわを持って”私はフィンランドのフィも分からない

のに、どうやって伝道するのだろうと思いつつ、皆の後をついていきました。空は晴れ渡り、北国とは思えない暑さです。目抜き通りには露店が並び、買い物客、そしてビールを片手に午後のひとときを楽し



む若者でいっぱいでした。

場所を決めると、タンバリン組がダンスをし、次にスキット組がイエス様のみ業をゼスチャーで見せます。足なえが歩き、目の見えない人が見えるようになり、悲しみの人が喜びに変えられる。そしてイエス様の十字架のシーンです。スキットが終わっても二人の若い女性が立っていました。「クッキーはいかがですか？」一人が激しく首を振って拒否反応を示しました。もう一人が「いらないわ」と返事が英語で返ってきました。”しめた、英語ができる、ここはイギリス人でいこう”。「今日はいい天気ですね。いつもこんなに暑いんですか？」彼女がくすくす笑いしました。私たちがなぜここに立っているのかを説明し、イエス様によって私は救われ、私の人生は変えられたのよ、と説明し、「神は愛なり」と書かれたうちわを渡しました。

”愛”の字をさして「これは聖書のみことばの愛なのよ。」彼女はちょっと考えているようでした。「実はね、家に漢字の額があるの。」と、両手を使って教えてくれました。「家に帰って、同じ字かどうかみてみるわ。」と、うれしそうに言って、うちわを受け取ってくれました。別れを告げて、居なくなった仲間の後を追いかけてきました。

別の場所で、タンバリンとスキットが始まりました。そこに中年の男性が自転車にのったまま見ていました。「クッキーはいかがですか？」受け取ってくれました。「英語は話せますか？」首を横に振ります。でも何か言いたそうでした。私はなぜここにいるのかを話しました。彼もフィンランド語と片言の英語で何か説明しました。息子さんのことのようにでした。スキットをみて、息子さんのことを思い出したのかもしれませんが。誰か英語をはなせる人がいないか見回しましたが、だれもいません。彼は自分の胸に手を当て「僕のハートに来たんだよ。」と何回もゼスチャーで示してくれました。

サングラスの下に涙が流れているのを見て、ハグしないわけにはいきませんでした。二人で大きなハグをしました。私は首を大きく上下して「わかったよ、わかったよ、あんたの気持ちはよくわかったよ。」とうなずき、またハグをしました。私の頬にそっとキスをしてくれました。「私たちの作ったクッキーだから食べてね。」と話していると、彼も落ち着きを取り戻し、サングラスを取って、ゼスチャーで「全く涙が出ちゃったよ。」と教えてくれました。



彼の遠くの姿を見ながら、私は主に感謝しました。主よ、あなたが働いてくださる時、それは言葉ではないのです。初めから無理を諦めるのではなく、示されたことやることによって、私の思いをはるかに越えたことをして下さい。主よあなたの御名を崇めます。とみよ ゴスリング ケンブリッジ JCF





私にとって修養会とは

修養会はいつも「良かった」と言って家路に付くもののような気がします。今回も良かったです。
私の参加目的は、1. 休養すること。リーダーとかにならないで休み御言葉に聞く時間を持つこと。
2. 日本語で兄弟姉妹と賛美礼拝すること、でした。

私の場合、教職者とは言え一般の参加者の気持ちで行っています。よく聞くと日本人伝道をされている先生方にとってはこれも働きの一部であり、これ以外にさらに休暇をとっているとのこと。わたくしの場合は、アラブ人伝道をしているので、この修養会は働きの一部としては見ていませんでした。今回、人に聞かれて修養会へ行く目的をあいまいにしてしまっていたことを自分で反省しています。これからも、私にとっては日本語で修養会へ行けることが休養にもなるので、あくまでも参加者として行かせていただけることを望んでいます。

賜物立てあげ：楽しかったです。今までは、観光の時間が自由時間にもなっていました。このとき手工芸の奉仕をし、また路傍伝道にもいったので、わたくしとしてはかなり忙しかったです。私のお友達はこのときを利用して観光へ行ったので誰も来ませんでした。こういう選択があるのも良いと思います。



賛美：いつもながら美しい賛美に感謝です。歌もよかったです。ただ知っている歌がなかったのでいつも聞いていました。

早天祈祷会：最後の日に早天祈祷会のデボーションをすることになっていると2-3の方から聞きました。聞くとところによると教職者が各グループへ派遣されてデボーションのリードをするということでしたが、当日私もとには、誰も来ませんでした。前もってメールが送られたということですが何も来ませんでした。メールを受けとらなかった教職者は何もなかったのかも知れません。他の教職者の方で何もしなかった人もいます。そのところがもうひとつわかりませんでした。



応答の時：最初のほうは、良かったです。が、最後の日、何か自然に皆がバラバラになっていって、あーもう終わったのか？といった感じでした。何かもうひとつ締めくくるものがあればもっと良かった気がします。場所、設備、食事などは申し分ありません。とにかく、フィンランドの兄弟姉妹に、すばらしい修養会を主催してくださり、ここから感謝しています。

在主、岡田優子
JCL Japan Christian Link, 在チュニジア

まだ余韻に浸っています

今回はいつもより「伝道」にフォーカスを充てたプログラムになっており、沢山の奉仕と実りがあった貴重な集いとなりました。実行委員&参加者の方々の祈りと願いが結集したバランスの良いプログラムだったと思います。

先生方の素晴らしい説教もさることながら、スモールグループに関するセミナーや、ワークショップが特徴的でした。各参加者の興味・賜物ごとにスキット・讚美・書道・手工芸・御言葉付クッキー作りのグループに別れ、街中に繰出して実際に伝道してみるという貴重な体験も。個人的には写真係として子供達と一緒に障害者施設を訪れ、歌ったり折り紙をプレゼントしたりしました。高校時代に同様のクラブ活動していたことを思い出し、印象深かったです。

増谷 啓
シュトゥットガルト日本語教会

「賜物立ち上げ？」

今回のヨーロッパキリスト者の集いの案内が来たとき、「賜物立ち上げ」・・・???と思いました。忙しい実行委員会に質問するのとはばかられ、空欄しておくのも迷惑がかかるとあって、あてずっぽうに手工芸に○をしました。



心配と好奇心の中で金曜日の午後を迎えました。知っている人もおらず、不安を抱いて、あてがわれた部屋に行ってみると、もう何人かの人がせっせと「仕事」をしていました。ビーズ、フェルト細工、菜作りなどのテーブルがあり、ビーズのところに行くと、細かいビーズではなく、プラスチックの玉を紐に通す作業でした。玉の色の配列が聖書の中身を表わしています。結び方を立山先生夫人に教えていただき、練習を一通りして、大量生産に突入しました。単純作業なので、4名で、おしゃべりしながらせっせと手を働かせ、作業終了。とてもきれいなネックレス、プレスレット、携帯ストラップが沢山出来上がりました。

翌日よいよ「会おうフィンランド、伝えようイエス様！」の時間が来ました。用意された大型観光バスでヤルベンパーの街へ。最初は、びくびくで何をしたらよいか分かりませんでしたが、歩行者道路の中ほどで、スキット班やタンパリンダンスのパフォーマンスが始まり、足を止める現地の人たちに、にわか習得したフィンランド語の「主の祝福を！」という言葉とともに、ビーズ作品、御言葉の書かれた菜、お習字団扇などを配りました。現地の人と英語で主について語り合った人もいました。

今回のこの「賜物立ち上げ」で示されたことは次の通りです。

1. イエス様を伝えることは喜びである。———今まで、日本人の友人にクリスマス会などのお誘いをしてその人が来ないと、「どうして？ わたしの誘い方が悪かったのか？」などと悩んでいました。だから、そうした誘いが苦痛を伴っていました。志を同じくする仲間と一緒に伝えることは、楽しいことである。
2. イエス様を伝えることは難しくない。———討論、議論、学問はいらない。武装もいらない。愛があればいい。
3. イエス様を伝える相手は、日本人だけではない。———わたしは、フィンランド語で道行く人と話せなかったが、ドイツでなら、「Gott segne Sie!」といえる。これも主が私に下さった賜物なのだ。



「賜物立ち上げ」ビーズ細工とても楽しかったです。若い人たちと知り合うことは、いままでの集いでは、そう簡単ではありませんでしたが、ビーズ細工を通じて親しく話すチャンスが得られました。今回の「集い」は、事前の???はありましたが、「集い」がとても身近に感じられました。わたしにも出来る伝道ということを体験を通じて学ぶことができました。先生方の講演、礼拝メッセージもとても分かりやすく、すばらしい証しをたくさん聞くことができました。イエス様を伝えることは、キリスト教を布教することではなく、愛を伝えるということですね。信者を獲得するのではなく、愛する人を一人でも増やすことだと、分かりました。

フィンランドの方々、労をとってくださり、ありがとうございました。Kiitos!!!

村上 希與子 FREDRICH
北ドイツJCF



何度倒れても、起こしてくださる神に栄光あれ！

私は今回、本大会中、賛美チームとしてほとんど17人の皆さんと共に賛美練習にあたり、そのグループで共に祈り、いろいろな兄弟姉妹の、主にある人格に触れ、心が豊かにされたことは、私にとって大変恵まれたことでした。

特にこの集いで印象に残ったのは、メッセージの中で数人の牧師先生がご自分の弱さを吐露されたことでした。ということは私たちのお手本となってくださったこと、つまり自分の弱さを認め、主の前に立ち、主に、そして兄弟姉妹に告白し、主によって赦され、きよめられ、聖霊の力をいただき歩むということでしょうか。少人数の、主にある交わりの中で、本当に自分の弱さ、心の罪を告白できる場、どんなことを打ち明けても許される場が、もし牧師先生にあったなら、といつも私は願わされています。



これは、私たち信徒も同じだと思います。主にある兄弟姉妹と数人でキリストの香りを放つ、そのような交わりができれば私たちにとっても幸いなことでしょう。



私はこの半年ほど、霊的スランプなのか、次のステップのための準備期間なのか分かりませんが、十字架に対する、あれほどあった震えるような感動が"普通のこと"になってしまっていました。そのため、わたしの言葉は主の愛を語っても、表面的で、実体がなく上滑りだということも自覚していました。でも、今回の参加で、イエス様の十字架のあがないによる赦しが、すべてのはじめであり、終わりであるということを確認でき、その後のスイスの私たちの教会で田辺先生率いる、今週の日曜日の礼拝でもって、このスランプから完全に抜け出すことができました。

わたしたち個人が霊的な主との、美しい交わりを持つためには十字架の意味をわたしたちが本当の意味で腑に落ちるということに尽きるのでしょう。

それから、ヘルシンキでの集いで、3人の、私はベテロです、という方々（高木先生、加藤先生、ペイトン朝子さん）を知りました。わたしも同じくベテロです。

そんな私は最近大きな失敗をしました。神様の前にありのままをさらけ出し、主のために一生懸命やっているつもりなのですが、まだまだ整えられる余地のある者というか、不十分な者なので、それゆえ、大きな失敗もして、叩きつけられます。でも、いつも気が付くとイエスさまの手の中に倒れているので、私は何度でも立ち上がることができる恵みをいま改めて心に沁みていきます。



それどころか、今回も倒れて起き上がるときに、神様の愛、十字架による罪の赦し、きよめをさらに深く知るという宝物をどっさり拾って立ち上がりました。今回は主が備えたといわんばかりに、神様が一人の兄弟を3週間私たちの家に滞在させ、私が起きあがるために必要な助けをしてくれたことをほんとうに主に感謝しています。祈りの力を心から信じる者になりなさいという、神様からの宿題もついでに頂いて、新しい歩みを始めています。

完全な救いを与えてくださった、私たちの主に栄光がありますように！

南ドイツ、メアスブルグにて 原しのぶ
スイス日本語福音キリスト教会





私の示した十字架の愛に立ち返れ

私はフィンランド主催の今回の集いのプログラムを最初に見た時、とにかくスタッフの熱意を感じました。私たちが3年前に集いの主催をしました、これまでと違った試みをここまで織り込むとは、相当のエネルギーがあるなど。プログラムを見て従来とあまりにも異なるので、懸念する声も聞こえましたが、私は、フィンランドの兄姉が祈りをもって主に問いながら集いを企画した限り、主はこの集いでどんなすばらしことを示してくださるか、期待をもって参加しました。

代表者会に出席して、またスタッフの兄姉の話を直接聞いて、陰で、やはり大変な苦労と葛藤があったことを知らされました。しかし、大会中、フィンランドのスタッフが、本大会のために示されたビジョンは主が示した一貫したメッセージであったと私は実感しました。

第24回 ミラノ集会で、「十字架のもとに」

第25回 ドイツ・ヴィッテンブルグ 「信仰のみ、聖書のみ、恵みのみ」

第26回 フィンランド 「十字架のもとから」

ここ3年の大会を通じて、神様は一貫して、私たちに強く叫んでいるように思えます。

私が示した十字架の愛に立ち返れ！

わが子よ、一人一人が、しっかり十字架につながれ！

私が示した十字架の愛をしっかり携えて、出て広めよ！



「主はその時代時代に新たな事を通して、十字架に立ち返るよう示してくださる」と、大会中、牧師が おしゃっていたことに私は共感しました。ミラノ集会からはじまったスモールグループ。私は「最近の手法」かと最初思っていましたが、実は初代教会がこの形をとっていたことを恥ずかしながら最近知りました。これは単なる手法や形ではなく、一人一人がしっかり十字架につながり、本当の喜びを得て、草の根のように主の愛を伝える原点ともいえる姿だと。それぞれの教会を幹とし、芋ずるが広がりお芋さんが畑いっ

ぱい連なるポテト畑を作りましょう。

なにはともあれ、参加させていただいて私は感じました。主の成すことはすばらしい！私たちヨーロッパの日本人をここまで愛してくれているのか！との主からの声を聞いたすばらしい集会でした。ちなみに、私は、サウナから湖に6回飛び込みました。サウナの楽しみ方を体験しました。熱くなった体で、広い湖へ全身飛び込んだ時の爽快感は忘れられません。本大会で身も心もまたひとつリフレッシュできました。

このビジョンを託されたフィンランドのスタッフの皆さん、大役お疲れ様でした。あらためてスタッフのみなさんにお礼申し上げます。そして、私たちのために すばらしい業を成してくださった主に感謝します。



原憲二

スイス日本語福音キリスト教会



聖霊様が働いて下さる時

夏の修養会が祝福のうちに終わって3週間経ちました。今もなお、私の心のなかに鮮やかに、そして暖かく残っているのは、ヨーロッパ各地や日本からの信仰を同じにする兄弟姉妹との邂逅、そして、フィンランドの兄姉の献身的な働きです。また、特筆したいことは、日本語のよく分からない私のような参加者のために、素晴らしい通訳者を幾人も備えて下さったことです。それは、私にとって大きな祝福でもありました。

いくつものメッセージや講演をきっかけに、スモールグループにおいて、私たちは率直な意見交換ができ、また自己のもつ弱さを認め合い、お互いのために祈りあうことが出来ました。美しい公園のような会場構内での散歩や、賜物立ち上げのための手芸の午後は、よき休養と気分転換になりました。

私たちに与えられた賜物（お菓子焼き、手工芸、アート、ダンス、賛美）をだしあつてのアウトリーチというアイデア、そして、地元の教会がクレープや飲み物を提供してヘルシンキの人々の交わるというアイデアは、実に素晴らしいものに思えました。

午前の講演で高木牧師が、みことばを持って路傍伝道にでるとき、聖霊が吾がうちに働いて、語ることばと勇気を与えてくださるから心配いらないと語ったように、ヘルシンキの街で見知らぬ人々に近づいていく時のためらいは簡単に消えてしまい、イエス様が私にくださる平安を人々に語ることが出来ました。そうして、私たちが行動するとき、神さまの臨在を体験することができました 私たちのためにお祈りくださった兄弟姉妹に深く感謝いたします。



松林 ハイディ

Freie Evangelische Gemeinde
スイス日本語福音キリスト教会



2010年 第27回 ヨーロッパ キリスト者の集い

テーマ ”主によって造りかえられる”

第2 コリント 5：17

2010年 7月29日から8月1日まで

会場：スペイン マドリード

費用：一泊（3食込み） 50ユーロ

2011年は ロンドンJCF主催で
8月4-7日に開催が予定されています。

お母さんが変わったから、

今回、私は現地フィンランドの奉仕者として集いに関わっていました。

1、一つは、「自分は一人で頑張っていくんだ！」というポリシーで、人生長年やってきていましたが、この大会でやはり自分一人で生きているのではないという事が、ひしひしとわかりました。

ベルギーから大会1週間前に来てくれた姉妹には、家事と子供の面倒をみてもらい、大会中も子供の面倒まで手が回らなかつたら、参加者の若者達が自主的に順番に子供担当になってくれました。大会始まって受付時も自分は小物を売ったり、会計の補佐に入ったり。それプラス



広い会場の何処かに宿舎があるのか、案内役までやる事はたくさん！でも、一人で全てをこなす事が出来ない時、そのそばに誰か居てくれる、助け手がいてくれると言うのが本当に感謝に思えました。

2、もう一つは、自分は今まで自分の出来る事に誇りを持ち、「この私のできる事に価値がある」と思っていたが、上記に示したように、案内係、荷物運び係、会計、販売担当とチームで動く時に、誰も余分な人はいないんだと言う事が分かった事でした。それぞれのする事が、大切な位置を占めていて、「私ができるから、あなたはいらない」という事ではない。自分で全て負いきれないから、各自のできる事がどれだけ重要な事かと言う事が学べました。

この世の目からみたらあまりかっこよくは思われていないような職業でも、こういう事を担う人がいるから、みんな安心して自分の業務に専念する事ができるんだと、心の目が開かれたのです。「職業に貴賤はない」とは、頭では（そうだねー）と分かったつもりでしたが、心ではっきりと自分の今までの考えは間違っていたんだという事が理解出来ました。自分の一番高慢な部分が、打砕かれました。

他の事でいろいろで、全ての礼拝に出席する事は出来ませんでした。この二つから「一人では生きれない。生きる事は他との関係だ」と言う事が示された事は、私にとって大きな変革となりました。

3、「私はわたしを強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」ピリピ4:13

アウトリーチに出る前、この御言葉が私の心に響きました。自分が街に伝道しに行くなんて、普段考えもしなければ、もちろん具体的な行動におよぶ事もないような出来事です。（いったい街にいる人に対して、どうやって御言葉をつたえていくのだろう？）という思いも、この御言葉によって「自分ではなく、すべて神様が整えてくれるんだ、だから何も心配しなくてもいいんだ。」という勇気が与えられました。



去年のヴィッテンベルグでの集いで、「捨てて委ねる」というメッセージを聞き、「イエス様の弟子となります。全てを捨てます」と宣言しましたが、このフィンランドの大会後さらに「あなたはまだ自分のプライドを持っている、それがあから私が働けないのだよ」という言葉を聞きました。

自分に与えられた神様からの賜物なのに、それを自己のアイデンティティとして今まで手放せなかった事が、聖霊様が働く事を邪魔していると示されました。ピリピの御言葉の通り、私ではなく神様がどんなことでもしてくれるなら、自分の力を捨てて私は全てを本当にイエス様に明け渡しますと、決心する事ができました。これから先、自分はどんどん弱くなっていきますが、どんな事を聖霊様がしてくれるのかと思うと、非常に楽しみです。



4、娘が「お母さんが変わったから、イエス様を信じる」と、CS担当の奉仕者に信仰告白したそうです。

今までイエス様を知る前は、娘には不必要に怒ったりしてきましたが、この2年で実際に私と娘との関係が変わった事が明らかになりました。家族の一人が本当の神様を信じる事ができるようになった事は、なんて大きな喜びでしょうか！（これはお金では買えません）

（これはお金では買えません）

真実の神様に全ての栄光をおかえしします。

テーリカンガス里佳
フィンランド日本語集会

実行委員を代表して

ハレルヤ 主の御名を心から賛美致します。

初めてフィンランドで開催された第26回欧州キリスト者の集いは、14カ国、30集会から述べ240名の方々が参加されました。今月末に最終信を発信させて頂く予定であり、大会終了のご挨拶は、そちらの方でさせて頂き、ここでは私達が大会主催にあたり受けた恵みの証をさせていただきます。

昨年の大会終了後から本格的な準備が始まりました。しかし、何をどこから、どのように始めていいのか解らないというのが現状でしたが、スイス、ミラノ大会の時間割、手配資料を頂き、それをお手本に全てがスタートしました。まず、最初にやってきた恵みは、教会発足でした。それは、大会のお金を預かるにあたり個人口座では税金がかかるため、団体登録をする必要性に狭まれ、祈り求めた事でした。

私達、実行委員会の群は、首都ヘルシンキ市周辺と北極圏玄関口ヴァニエミ市の2か所におもに暮らしており、地元教会に通う人や家庭礼拝として集う者色々です。しかし、このチャレンジの中で家庭礼拝として集まっている北と南の群が、一つの教会One Vision Mission Church フィンランドとして発足する事になりました。

この手続きにおいて、お互いの得意とする分野、苦手とする分野などが明らかにされ、更に与えられた賜物や経験を主によって聖められ、各自与えられた分に依りて主に捧げるという事を体験しました。大会準備に入るその先駆けに教会設立という事になるとは、私達は全く計画しておりませんでした。主がなさろうとすることに聞き、従っていく時に私達は、自身の計画や想像を超える、神様の偉大さ、不思議さを体験するという祝福に預かりました。

次なる祝福は、実際にプログラムを決定していく段階においての絆づくりに現れました。神様は、私達一人ひとりを高価で尊い存在として創造されました。私達一人ひとり、生まれ故郷も違えば、育った環境も違い、現在の生活状態も違います。そのおかげで、プログラムを決めるにあたって、なかなか一致というのが見出せませんでした。多くが賛成していても、必ず反対する人がいるのです。御霊の一致とは、何でしょうか？それは、一人ひとりが主の御心を聞き従う時に起きるのですが、それぞれの心に傷や咎があると神様の御心が聞こえません。（イザヤ59:1-2）

そういうわけで、お互いに執成して祈りあい、聖霊様を歓迎し、自身の自我を十字架に付けていくなかなか痛い作業が始まりました。イエス様ご自身が、神の子でありながらもその権威を振りかざしてこの地に訪れなかったばかりか、ご自身を捨てて私達に仕えて下さった。何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分より優れた者と思いなさい。ピリピ2:3 の御言葉の実践訓練でした。互いの弱さを労い、仕えていくという事は、十字架の前へ出で悔い改めの連続です。最後の最後まで心からの一致というのが困難に見えた時もありましたが、しかし、最後には本音で語り、自分の弱さを受け入れられるという信頼関係の中、本当にイエス様が私達の中心にいて下さって、愛をもって仕え合う事を教えて下さいました。これは、多くの兄弟姉妹の方々が私達の為に執り成し祈って下さったおかげですので、本当にありがとうございました。

この祝福は、どんな教理やセミナーに参加しても手に入れられない大きな私達の宝です。そして、このイエス様の愛のある関係をもって、これからも天国に帰るまで共に整え続けられ、そして主に仕え、人に仕える者として遣わされて行きたいと願います。今大会テーマは、私達自身へのチャレンジです。主にしっかりとつながり、主の示される方向へと成長し、良い実をならずブドウの木として主が用いて下さいますよう！ 主への感謝と賛美を持って・・・

主にあって、一つとされる諸教会、諸集会の皆様の上に主の大いなる祝福と臨在がありますよう心からお祈り申し上げます。

実行委員長 加藤 たくみ



ヨーロッパの日本語教（集）会から

オランダJCFNメンバーのティレマン・荒川詠子（うたこ）姉から

スイスの皆様、こんにちは！美和子フォン・プランタの姉で、オランダJCFNメンバーのティレマン・荒川詠子（うたこ）です。先日、工藤篤子姉からご連絡をいただき、工藤姉が前月号のニュースレターでお知らせくださった7月19日に行われましたオランダJCFNの洗礼式の報告を私がさせていただくことに至りました。

洗礼式は主の豊かな祝福の内にありオランダJCFNにとって主の大きな恵みの業でした。当日は、雨が降ったり止んだりの（オランダらしい）お天気でした。南部集会のペイトン姉宅での合同礼拝後、近くの洗礼式を行うプールへ出発するその時、前には雨が降っていて人数分の傘は足りるか？とか言っていたところに、急に雨が止んで、主が太陽で私達を祝福するかのごとく雨上がりの美しい光の中、皆で会場まで歩くことができました。

この日洗礼を受けられたのは、ギード・アンシュー兄（10年前から2005年のご結婚までその頃アムステルダムにお住まいだった奥様の西迫美由紀姉と共にJCFNアムステルダム集会に集われていました。ご夫妻は現在アントワープに在住。）と、去年の8月からアムステルダム集会に集われているシュン・関谷えり子姉です。

お二人そして洗礼を授けられたデボア先生は、まさに3人の天使の様に輝いておられました。この素晴らしい恵みと喜びを是非お分かちできたらと思い、以下、ギード・アンシュー兄の証しをご紹介します。

My Testimony 証し

My father, who had survived two world wars, and therefore had seen and lived through a lot of misery, had lost his faith in God.

Although being a “Oranda no hito” (person from Holland), he was brought up in a Protestant Christian church. For him it was simply not possible that there was a God who would tolerate that people would commit such cruelties amongst each other!

私の父は二つの世界大戦を生き抜いて、沢山の悲惨な体験をする中で、自分の信仰を失ってしまいました。父はオランダ人であり、プロテスタントキリスト教会の中で育てられたのですが、父にとって、人間が互いに犯した残酷な行為を容認する神の存在を受け入れることは不可能でした。

Therefore, when I was young, he said to me that in school I should follow the lessons of ethics and morality instead of religion.

Now I realise that by making this decision for me, not only my father gave me the opportunity of getting a very broad view on how to look on worldly problems, distinguish the good from the bad, and try to live accordingly to the good, but also to study a little bit about different religions.

そういう訳で、父は、私が若い時、学校の授業で、宗教の代わりに倫理学と道徳学をとるようにと勧めました。父がそれを勧めたお陰で、私は世俗的な問題や善と悪の区別、そして出来るだけ道徳的に正しく生活すること、と同時に、宗教をも少し勉強することが出来ました。

So at the age of fifteen, I started to realise that, although different religions speak about different gods, (some people call Him "Allah", some "Boudah", and some "Krsna"(spoken as "Krishna"), actually there is but one God ! He is there, not only for one specific religion, or race of people, but for all human beings and living creatures on this planet !

He created all humans according to his image, and gave them the gift to be able to choose between good and evil. And at that point I think that many people (along with my father) make the mistake to blame God for things and events that were caused by humans !

そして、15歳の時、私は次のことがわかるようになりました。

「宗教は色々あるが、それぞれが神のことを違う呼び名で呼んでいる。ある宗教はアラーと言ひ、仏陀と言ひ、又クリシュナと言ひ、実際にはただ唯一の神様がおられる。神は御臨在し、そしてそれは宗教的な意味でもなく、ある民族だけの神でもなく、この地球の全人類の神である。神は御自身の形に全人類を創造なさり、そして善と悪の区別ができる賜物をも人に与えて下さった。」

今思うことは、父と同じように、多くの人は、人間がしてしまつた沢山の悪いことを神のせいにするということです。



For myself however, I want to point out that I realised very well that there was someone or something very powerful that created and keeps the

universe as we know it and so far beyond,

we can't even imagine with our tiny human brains. And that at a certain point this power, that at a



certain age I started to call God, sent his Son onto the earth to save all of mankind from their sins, as well as mine.

けれども、私自身は、力あるお方がこの地球を創造し、支えて下さっているということが、よくわかっていたと思います。それは私たちの理解力を超えて素晴らしく、この力あるお方こそが神様だと、私はある時に信じるようになりました。

その神様は全ての人類を罪から救うために御自分の御子をこの世に遣わされたのです。それは私をも救うために遣わされたのです。

Ever since Miyuki and I met each other, I realized that things don't just happen for no reason. Now I know that there's always a cause (the asking or prayer), and the result (or receiving).

For a certain moment in my life, I felt very unhappy and empty inside myself.I asked for help and wished that at some point my life would change.

Now I realized that asking and wishing was a prayer, and I also knew that it was written in the bible;"Ask, and you will receive, seek and you will find".(Matthew 7verse 7). So,"Kamisama" (God) sent Miyuki in to my life !

And ever since that moment it is as if all the different pieces of my puzzled life came falling out of the sky, and someone is putting them in to the appropriate place !

妻のみゆきと私が互いに会つた時から、人生には偶然のことや、意味もなく起こることは何もないのだ、ということがわかるようになりました。又、祈りは必ず答えられるということも。私の人生のある期間、私は、全く幸せではなく、空しい気持ちが自分の中にありました。

その時私は自分を助けて下さるように、又自分の人生が変わるようにと願いました。その時、「願った」ことは「祈り」だったと今はっきり実感します。それは聖書に書いてある通りです。「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見つかります。」(マタイ7章7節)

だから、神様は私の人生に、みゆきを送り、その時から神様は、ばらばらになった私の人生のパズルの一つ一つを、すべてぴったりとはまるべき場所に、はめられました。

And briefly, during a Sunday morning sermon by our Reverend Carl De Boer, one other piece came falling down, when it was as if I could really feel the pain and agony, how Jesus must have suffered when he died on the cross, and was sacrificed for my well being and making me realise all of my sins, and taking them, and those of all mankind upon him!

At that moment I felt so low, I was not even worthy to walk in his shade. So then I committed myself to renew my baptism, and to follow the footsteps of Jesus Christ.

そして、ある日曜日の朝の礼拝の中で、デボア牧師のメッセージを通して、もう一つのパズルがぴったりと、はまったのがわかりました。それはイエス・キリストの十字架上の死、その苦しみと痛みはどれほどだったかが、はっきり分かったことです。

その瞬間に、イエス様が私のために、又全人類のために御自分を犠牲にされたことが、そして、私自身の罪がはっきり分かったのです。その時、自分がイエス様の前に何も無い者であることを実感しました。その朝の礼拝の中で、私は改めてバプテスマを受けることと、イエス様の足跡に従うことを、決心しました。

Finally, here are some passages of the Bible I would like to read to you.
Colossians 2, verse 6: "Therefore, since Jesus was delivered to you as Christ and Lord, live your lives in union with him".

最後に聖書の御ことばを読ませて頂きます。
コロサイ 2章:6節 「あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。」

Colossians 2, verse 12 until 14: "For in baptism you

were buried with him, in baptism also you were raised to life with him through your faith in the active power of God who raised him from the dead. And although you were dead because of your sins and because you were morally uncircumcised, He has made you alive with Christ. For he has forgiven us all our sins.

コロサイ 2章:12-14節 「2:12 あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。 2:13 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、 2:14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。」

Colossians 3, verse 12 and 13: "Then put on the garments that suit God's chosen people, his beloved: compassion, kindness, humility, gentleness, patience. Be forbearing with one another, and forgiving, where any of you has cause for complaint; you must forgive as the Lord forgave you".





ダルムシュタットはマリア姉妹会の Schwester Soharaさんから

主イエス様にあって結ばれている スイスの兄弟姉妹へ

美しく、ゆたかな内容のニュースレターを送っていただき、心から感謝し、うれしく読ませていただきました。これからも続けて送っていただけるとのこと、本当にありがとうございます！ 私にとって たくさんのすばらしい主にある兄弟姉妹の ことを知ることができ、励まされ、またそれぞれの会のために より konkret にお祈りでき、神の家族としてたいそう近くに感じるこのごろです。

フィンランドへは今回 参加できませんが、いつか御心であれば参加させていただけるよう願っています。今回はフィンランドの実行委員会の方たちの親切な了解をいただき、姉妹会発行のブックマークを伝道用に 紹介していただくことになっています。工藤篤子姉が 使い方など 少し説明して下さいます。主がこの集いの上にいっぱいのご祝福を天から 注いで下さるよう 日々心からお祈りしています。

このようにヨーロッパ キリスト者の集いが26年という長い期間ずっと続いてきたのは 神様の祝福と 兄弟姉妹の多くの祈り、そして献身的なご奉仕が背後にあったからでしょう。神様はこの集いを通して 何かすばらしいことをなされようとしているように思われます。

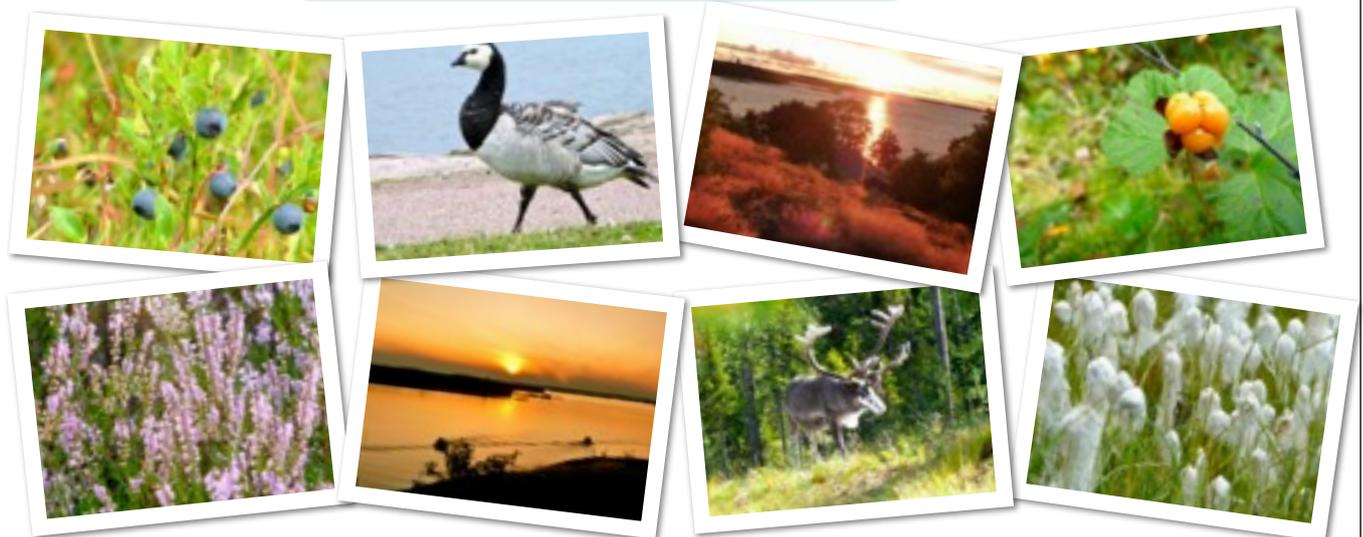


ニュースレターの中に滋賀県の石川秀和様からの報告に びっくりし思わず読み返しました。実は 私は三重県伊賀の出身なのです！

イエス様がスイスの兄弟姉妹をを豊かに祝福し、心も体もお守りくださいますように。

感謝し、心からの挨拶をこめ、Schwester Sohara
S.Sohara@kanaan.org

フィンランド 自然点描 撮影：松林幸二郎



みことば瞑想

だれでも、聞くには早く、語るにはおそく

1サムエル1：19

私たちは、語るように口を与えられています。
また、聞くようにと耳も与えられています。
その口も耳も、主のご栄光を表すためです。

最近、いろいろな所で、口の働きの非常に多いのに気づかされました。
一体、耳はどこに行ってしまったのかと思うのです。
夫婦の間で、親子、友人、近所、会社、社会、
いいえ、主との交わりにおいてさえも・・・

或る時、私は祈りました。
「主よ。私の口は留まる所を知りません。
あなたのお声が聞き取れないように私の口は開いています。
私が口の利けない夜は、あなたの出番です。主よ。お語りください！」と。

主は生きておられます。こんな小さな者の祈りにも耳を傾けていてくださいます。
朝、目覚める前、私が口を開く前に、主は私の心の叫びにみことばを以って
語りかけてくださいます。主が先ず「聞くには早く」を実践して、
私に聴いて語ってくださっている！と、知らされた私も、
先ずは主に聴き、他者に聞くことを心がけていきたい！と、
ねがわされている今日この頃です。

主よ。お話してください。しもべは聞いております。 — 1サムエル3：10 —

田辺みや子

